

所属： 危機管理学部 危機管理学科
資格： 准教授
氏名： 佐々木 葉月

研究課題名	国際規範の現地化における実践共同体の役割の研究
研究目的及び研究概要	<p>国連などの国際機構や、グローバルなテロ対策協力では、テロリズムの早期予防が対策の重要な柱として位置付けられるようになっている。そのため、テロ対策の文脈で、社会・経済的機会の欠如や、差別や疎外、低ガバナンスなどへの広範な対策が実施されている。このテロ予防活動は、「暴力的過激主義予防（Preventing Violent Extremism: PVE）」と呼ばれている。</p> <p>本研究は、スリランカにおけるテロ予防を事例とし、グローバル/ リージョナル/ ナショナル/ ローカル・レベルのアクターの相互作用を通じて、テロ予防の実践共同体がどのように組織され、機能し、国際的なテロ予防規範をローカルな文脈に適応させているかを研究する。国際規範のローカルな受容に関する先行研究では、国際規範の実行の際の規範の明確さを担保する「実践共同体」の重要性がこれまで指摘されてきた。本研究では、スリランカを対象としたテロ予防実践共同体の事例研究から、制度的な特徴や工夫などを明らかにする。</p>
研究実績の概要 研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等	<p>今年度はこれまでの調査結果を一部まとめて発信すると共に、関連する研究課題について、学会や研究会での発表を行った。これまでのスリランカでのテロ予防の取り組みに関する現地調査を踏まえ、2025年6月に実態を紹介するウェブ記事「紛争後スリランカで進むPVE（暴力的過激主義予防）活動」を笹川平和財団のウェブサイト、<i>Asia Peacebuilding Initiatives</i>に掲載した。同記事は、同国でテロ予防を実践するNGOや、活動を支援するグローバルファンド、GCERFから高い評価を受けた。また、スリランカにおけるテロ予防メカニズムについて、これまでの調査で明らかになった制度の構図を、弊学危機管理学研究所の韓国からの客員研究員を交えた研究会で、2025年11月に発表した。議論を通じ、警察実務の観点からテロ予防に関する示唆を得た。</p> <p>2025年12月には、2025年度国際安全保障学会年次大会において、テロ予防のグローバルな制度形成の観点から注目する「国連開発計画（UNDP）によるグローバルな暴力的過激主義予防（PVE）活動」についての個人発表を行った。同テーマの重要性に関する申請者の認識は、スリランカの事例研究を通じて深まりつつあり、本研究課題からの発展を見込んでいる。</p> <p>また、現地調査についても、2026年3月にスリランカに渡航し、現地NGOの政策担当者などへのインタビューを実施することができた。取り組みの実態に関する貴重な証言を得たほか、データの提供やネットワーキングなど、今後の論文執筆と研究の進捗に資する資源を得ることができた。また、2024年9月の大統領選挙以来の同国訪問であったため、ディサナヤケ政権の重点課題や同政権下での社会・経済状況、ウクライナ戦争やイラン戦争の影響など、同国のテロ予防分野に影響を与える諸要因について、直接確認・評価することができた。</p>